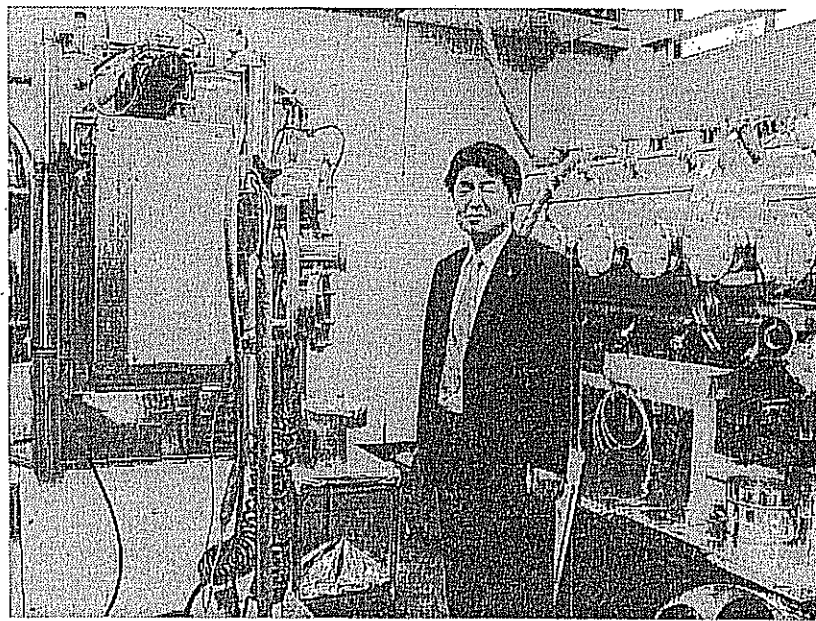


のびのびのび 埼玉企業



左右の真空プラズマ装置と中森秀樹社長。次の夢は、シリコンに次ぐカーボン半導体の実現。プラズマ技術の巨大な可能性に賭ける情熱は、まさに「プラズマ☆白岡町のナノテック本社」。

真空プラズマ技術で先端

真空の宇宙に輝く太陽は、プラズマ状のガス体で巨大なエネルギーを秘める。電気装置を使う特殊な高真空装置の中でプラズマを発生させる。普通の地表環境ではできない夢の物質を作れる。社長の中森秀樹さん(肥後)は、真空プラズマの実用化技術で「世界一」を自負する。その精度はナノ、つまり10億分の1の単位。だから、会社名は必ず「ナノテック(NANOTECH)」。

■四人で飛び出す
中森さんは日大理工学部で核融合を専攻、ある会社の開発部門でプラズマの基礎研究をしていた。「バブルが崩壊し、会社は研究部門を切りに来た。で、営業の仲間三人

ナノテック (白岡町)

精度は10億分の1メートル単位

と会社を飛び出してつくったのがこの会社。未完の研究を続けたかった。一九八九年の八月だった。みんな二十代。だが「夢」があった。

中森さんの自宅は千葉県柏市。仲間三人は川越、志木と与野市(現さいたま市)。地図上は、自宅を起点にコンパスで半径四十キの四つの円を描いた。その交点が白岡町だった。ここなら四人が平等に通える。

■裸電球三個並べ
異道さいたま栗橋線沿いの倉庫を借りた。冷暖房なし。トタン屋根の下で四十度の猛暑。パンツとTシャツ、うちわを持って超ハイテックの実験に没頭した。

「数千円もする測定器は買えない。文学座の

大道具の兄に頼んで、古び暗幕をもちつた。暗くして裸電球を三個並べた。プラズマ測定装置を作った。無名だから電話も来なかった」

一九九〇年九月、真空プラズマ技術により、さまざまな物体にダイヤモンドのような硬い被膜をつくるDLC(ダイヤモンドドライクカーボン)コーティング装置の開発に成功。九一年にはTIN(チタン)コーティング装置も開発した。

■ダイヤのメッキ
工業用ダイヤは、火薬を使いグラファイト(炭素)に一瞬の高圧をかける。九二年二月、倉庫から出て、現所在地に新社屋を建設。今、四社のグループ企業体に成長。さらに次の夢を追う。

企業、団体、商店などで主催する経営セミナー、講演会、イベントなどの情報を無料で掲載いたします。開催要項をメールがファクスで情報開発室まで送付ください。
【Eメール】
harbai@saitama-np.co.jp
【ファクス】 048・861・8594

・所在地 南埼玉郡白岡町西8の19の8
・設立 1989年8月29日
・資本金 8000万円
・従業員 30人
・事業内容 01年にベンチャー企業経営者賞。今年2月、DLC装置が日本発明振興協会の発明大賞特別賞を受けた。東葛テクノプラザ(柏市)とスキップシティ(川口市)に技術部門。東京、仙台、韓国、台湾に出先を置く。